

障害を持った18歳のスカウトの善行

2018年12月23日、ボーイスカウト浦安第2団のX'mas会の事だった。オープニングセレモニーが始まって、終盤、カブスカウト隊の進歩の表彰が終わった時、そのスカウトは、団委員長の前に進み出て、手書きのメモを読み始めた。

「僕は、ふるこし隊長、すなだ隊長、つづき隊長
といっしょにスキーをしました。
ロープをつけて引っ張ってくれました。
今は、一人ですべれるようになりました。
スキーはたのしいです。

今ぼくは、学校の給食室でおしごとをしています。
おしごとをしていただいたお金をスキーキャンプに上げます。
みんなスキーがじょうずになって下さい。
(原文のまま)

となんと、5万円も団のスキー訓練に寄付してくれました。
たどたどしい発言でしたが、自分で書いた原稿をしっかりと読んで、約100名の浦安第2団のスカウト・リーダー・保護者の前で、披露してくれました。聞いているみんなの目が潤んでいました。高校を卒業し社会人になってもらった給料から感謝の気持ちを込めた寄付の申し出だったのです。

彼は、幼稚園年長からビーバースカウト（年長～小学校2年生）として入隊し、カブスカウト（小学校3年から5年生）に上進した冬から、毎年1月の団スキー訓練に欠かさず参加しています。生まれつき障害があったため、普通の行動や発言も困難です。日ごろの集会でも、リーダーはもちろんの事、スカウト仲間みんなが、色んな手助けをやってくれていました。

スキーでは、彼の言葉にもあった通り、いろいろリーダーが工夫をして滑れるようになり、2年後には一人でボーゲンができて、家族スキーでさらに上達し、お母さんからは、「一家で本当に楽しむことができるのは、スキーです。団スキー訓練に感謝します」、と言われました。

小学校5年生から中学3年までのボーイスカウト隊では、同年代の「班長」「班員」が仲間として彼と一緒にハイキングやキャンプを行い、日本ジャンボリーと言う長期キャンプにも参加しました。高校生時代のベンチャー隊でも、4年に一度の特別な配慮が必要なスカウトが長期にキャンプを楽しむ「日本アグナリー」と言う全国大会に千葉県メンバーとして参加し活躍しました。

小学校、中学校は地元の公立校へ通い、通常クラスや特殊クラスで学び、中学校では「絵」と「太鼓」がとても得意でした。中学校の文化祭のチラシの表紙を飾ったこともあります。

県立市川特別支援学校高等部を卒業したこの春からは 得意なお皿洗いが認められて学校の給食室に就職しました。仕事ができるまで上達したお皿洗いも、ボーイ隊のキャンプで班長からお皿洗いが上手くできなかつたので、大量のアリがテント内に発生したので次のキャンプまでにお皿洗いを頑張してほしいと言われたことがきっかけでした。活動の一つ一つが彼の人生を豊かにしてくれました。就職しローバースカウト（高卒～25歳未満）としても出来ることを黙々とやってくれ、大好きになったボーイのキャンプにもリーダー補助として参加しています。

彼を育てた、ビーバーからカブ、ボーイ、ベンチャーまでの隊長やリーダーたちは、このクリスマス会にも参加していましたが、感慨ひとしおの事だったと思います。そしてこの冬も49名が参加する「団スキー訓練」が1月の3連休にあります。そのエネルギーを得たことでしょう。

スカウト運動は、「日々の善行」を行うことによって学ぶ、自然の中での集団活動で成長し、よき社会人を育てる運動です。スカウト同士でも学び合い、リーダーである成人指導者もその中で、学びを得ます。

彼の社会人としての成長と、彼を仲間として迎え入れて一緒に活動し、ともに成長した「班長」「班員」であるスカウトたち、そして彼と共にさらに成長した浦安第2団のリーダーたちに心から祝福のエールである「いやさか」三唱を送ります。 「弥栄！弥栄！弥栄！」



団委員長（左）に寄付を渡す長平天地君

（2019年1月4日 文責 育成会長 杉村 直）